

塩山板金工業所

佃 幸二さん Tsukuda Koji

塩山 駿介さん Shioyama Syunsuke

Profile

佃 幸二さん（写真左）輪島市出身。輪島高等学校（定時制）卒業。1988（昭和 63）年から塩山板金工業所勤務。2018（平成 30）年全国板金競技大会（技能競技の部）金賞。
塩山 駿介さん（写真右）東京都大田区出身。立正大学卒業。保険や不動産会社に勤務後、2020（令和 2）年から塩山板金工業所。東京から移住し、建築板金職人に。



塩山板金工業所（輪島市）

1929（昭和 4）年創業。技術力の高さを誇り、住宅のリフォームなどを幅広く扱う。各種資格・免許も取得し、足場の組み立てから大工工事、施工管理なども一貫して手がけている。手業を生かしたブリキアートも話題。【所在地】輪島市堀町 5-33-1 【代表】塩山和也 【従業員数】4名



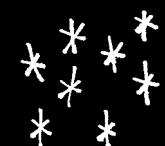
嬉しいよな～！



仕事のやりがいと感謝の言葉が喜び

仕事をした住宅の方からの「きれいになった。ありがとう」の言葉は、どれだけ経験を重ねても、うれしいものですね。（佃さん）

現在、全国大会を目指す後進の指導も担当。写真は大会用の見本を制作しているところです



建築板金職人までの道のり

佃さんの場合

○中学卒業後に就職。定時制高校に通いながら建築板金職人としても修業

「10代の頃、先代の指示でお宮の屋根材を一人で加工しました。この時の充実感は忘れられません」（佃さん）

塩山さんの場合

○大学卒業後、東京で会社員に

○35歳の時、一念発起し、建築板金職人の道へ

「職人仕事だけでなく、経営にも興味があり、転職することを決意しました」（塩山さん）



悔しさをバネに臨んだ3度目の挑戦で

悲願だった“日本一”の建築板金職人に



職人のこだわり

用途別の多彩なハンダこてや板金ハサミを駆使し、大会に出場します

この道に入って30年以上 卓越した技術力を發揮

塩山板金工業所（輪島市）の事務所には、水差しやアッシュケースなど、銅板やブリキ製の多彩な作品が飾られています。いずれも一枚の板から手作業で作られており、なめらかな曲線や寸分たがわぬ精巧さにはただただ舌を巻くばかり。これらブリキアートには県外から注文が舞い込むことも少なくなく、国民的ドラマで主人公が愛用するケースの制作依頼も届いています。

そんな塩山工業所の誇る圧倒的な技術力をリードする建築板金職人が、この道30年以上のベテラン佃幸二さんです。佃さんは2016（平成 28）年から3年連続で全国板金競技大会（技能競技の部）に出場。18（平成 30）年の第40回大会では、日本各地から集まった精鋭の中で最優秀となる金賞に輝きました。

大会は制作課題に応じて、展開図を描き、銅板から作品を完成させるまでを4時間以内に行わなければなりません。「初めて挑んだ時はペンを持つ手が震えるほど緊張しました。それでも11位に入ることができ、2年目には優勝を狙っていましたが、一つのミスが響いて5位に。本当に悔しかった」と佃さん。苦い経験をバネに、さらに腕を磨き、「勝っても負けても最後の気持ちで臨んだ3回目で見事、日本一の建築板金職人の座をつかみました。

地元を襲った能登半島地震 復旧作業に全力を注ぐ

もちろん、日ごろの仕事でも妥協することは一切ありません。「早く、丁寧に」を心がけ、日々の仕事と向き合っています。その姿勢がより強く求められたのが、2007（平成 19）年3月に発生した能登半島地震の後でした。震度6強の大きな揺れが奥能登

を襲い、多くの家屋が倒壊の被害に遭いました。輪島市門前町の總持寺祖院の仮設屋根をはじめ、佃さんは市内各地の現場を奔走。息つく暇もなく、復旧作業に懸命に汗を流しました。

「この時のことは忘れられません」と振り返る佃さん。それから15年がたった今も、生まれ故郷で暮らす人の安全・安心を守る住まいづくりに全力を傾けています。

東京から移住し、建築板金職人に 目指すは業界全体の底上げ

そんな佃さんのことで、懸命に技術の習得に励んでいるのが塩山駿介さんです。東京出身で、大学卒業後も首都圏で会社員生活を送っていましたが、35歳の時に輪島へと移住し、奥様の実家である塩山板金工業所で働き始めました。「長男が生まれ、これからのライフプランを考えました。自分がいなくても戻る会社員でいるよりも、新しい業界に挑戦する道を選びま

した」と、塩山さんは人生のターニングポイントを振り返ります。現在は建設共同高等職業訓練校にも通いながら技術の習得に励んでいるところ。失敗を繰り返しながらも懸命にステップアップを目指しています。「先輩はスピード一で、正確。技術力の高さには驚くことばかりです。勉強中の身でおこがましいのですが、違う業界・地域から来たことで見えることもあります。将来的には、腕利きの職人がそろう石川の建築板金業界全体を底上げしていきたい」。大きな目標に向かい、塩山さんは走り出しています。

